

【今日の説教から】

イエス様の受難の週となりました。

「時はもう昼の十二時ごろであったが、太陽は光を失い、全地は暗くなって、三時に及んだ」
昼の12時。太陽が最も力を発揮するときにも関わらず、その光を失い、全地が暗くなって
3時間にも及びました。

イザヤ53章にこうあります。

「彼は暴虐なさばきによって取り去られた。その代の人のうち、だれが思ったであろうか、
彼はわが民ののがのために打たれて、生けるものの地から断たれたのだと」

昼の12時から3時といえばもっとも太陽が輝く時です。しかしその光は失われ、闇が夜を
包みました。

人は神の子イエス様を、その暴虐なさばきによって、蹂躪によって取り除きました。

「全地は暗くなって」との「暗い」という言葉は、罪とか邪悪という意味をも含みます。
全地は罪と邪悪の暗闇の影響の中に飲み込まれてしまったのでしょうか。昼の光、義の光は
暗闇に飲み込まれてしまったのでしょうか。

「光はやみの中に輝いている。そして、やみはこれに勝たなかった」(ヨハネ1章)

全地が罪と邪悪によって暗い闇に閉ざされていると感じる時があります。私たちの人生の
中でもそんな閉塞感に押しつぶされそうになる時があります。しかし神様は光です。イエス
様は世に來られた「すべての人を照すまことの光」です。ここに命があります。

皆様おはようございます。

ついに主の受難の週を迎えました。

23:44 時はもう昼の十二時ごろであったが、太陽は光を失い、全地は暗くなって、三時に及んだ。

23:45 そして聖所の幕がまん中から裂けた。

23:46 そのとき、イエスは声高く叫んで言われた、「父よ、わたしの霊をみ手にゆだねます」。
こう言ってついに息を引きとられた。

昼の12時から3時。これは昼の真っ盛りで、太陽の勢いの最も強い時です。その時に、光
が失われるとは、実に不吉なことです。マタイの27章にはこうあります。

27:45 さて、昼の十二時から地上の全面が暗くなって、三時に及んだ。

27:46 そして三時ごろに、イエスは大声で叫んで、「エリ、エリ、レマ、サバクタニ」と言
われた。それは「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」という意
味である。

詩篇 22 編にはこうあります。

聖歌隊の指揮者によってあげぼののめじかのしらべにあわせてうたわせたダビデの歌

22:1 わが神、わが神、なにゆえわたしを捨てられるのですか。なにゆえ遠く離れてわたしを助けず、わたしの嘆きの言葉を聞かれないのですか。

22:2 わが神よ、わたしが昼よばわっても、あなたは答えられず、夜よばわっても平安を得ません。

22:3 しかしイスラエルのさんびの上に座しておられる／あなたは聖なるおかたです。

22:4 われらの先祖たちはあなたに信頼しました。彼らが信頼したので、あなたは彼らを助けられました。

22:5 彼らはあなたに呼ばわって救われ、あなたに信頼して恥をうけなかったのです。

22:6 しかし、わたしは虫であって、人ではない。人にそしられ、民に侮られる。

22:7 すべてわたしを見る者は、わたしをあざ笑い、くちびるを突き出し、かしらを振り動かして言う、

22:8 「彼は主に身をゆだねた、主に彼を助けさせよ。主は彼を喜ばれるゆえ、主に彼を救わせよ」と。

22:9 しかし、あなたはわたしを生れさせ、母のふところにわたしを安らかに守られた方です。

22:10 わたしは生れた時から、あなたにゆだねられました。母の胎を出てからこのかた、あなたはわたしの神でいらせられました。

22:11 わたしを遠く離れないでください。悩みが近づき、助ける者がいないのです。

22:12 多くの雄牛はわたしを取り巻き、バシヤンの強い雄牛はわたしを囲み、

22:13 かき裂き、ほえたけるししのように、わたしにむかって口を開く。

22:14 わたしは水のように注ぎ出され、わたしの骨はことごとくはずれ、わたしの心臓は、ろうのように、胸のうちで溶けた。

22:15 わたしの力は陶器の破片のようにかわき、わたしの舌はあごにつく。あなたはわたしを死のちに伏させられる。

22:16 まことに、犬はわたしをめぐり、悪を行う者の群れがわたしを囲んで、わたしの手と足を刺し貫いた。

22:17 わたしは自分の骨をことごとく数えることができる。彼らは目をとめて、わたしを見る。

22:18 彼らは互にわたしの衣服を分け、わたしの着物をくじ引にする。

22:19 しかし主よ、遠く離れないでください。わが力よ、速く来てわたしをお助けください。

22:20 わたしの魂をつるぎから、わたしのいのちを犬の力から助け出してください。

22:21 わたしをししの口から、苦しむわが魂を野牛の角から救い出してください。

22:22 わたしはあなたのみ名を兄弟たちに告げ、会衆の中であなたをほめたたえるでしょ

う。

22:23 主を恐れる者よ、主をほめたたえよ。ヤコブのもろもろのすえよ、主をあがめよ。イスラエルのもろもろのすえよ、主をおじおそれよ。

22:24 主が苦しむ者の苦しみをかろんじ、いとわれず、またこれにみ顔を隠すことなく、その叫ぶときに聞かれたからである。

22:25 大いなる会衆の中で、わたしのさんびはあなたから出るのです。わたしは主を恐れる者の前で、わたしの誓いを果します。

22:26 貧しい者は食べて飽くことができ、主を尋ね求める者は主をほめたたえるでしょう。どうか、あなたがたの心がとこしえに生きるように。

22:27 地のはての者はみな思い出して、主に帰り、もろもろの国のやからはみな、み前に伏し拝むでしょう。

22:28 国は主のものであって、主はもろもろの国民を統べ治められます。

22:29 地の誇り高ぶる者はみな主を拝み、ちりに下る者も、おのれを生きながらえさせえない者も、みなそのみ前にひざまずくでしょう。

22:30 子々孫々、主に仕え、人々は主のことをきたるべき代まで語り伝え、

22:31 主がなされたその救を／後に生れる民にのべ伝えるでしょう。

イザヤ 5 3 章にはこうあります。

53:1 だれがわれわれの聞いたことを／信じ得たか。主の腕は、だれにあらわれたか。

53:2 彼は主の前に若木のように、かわいた土から出る根のように育った。彼にはわれわれの見るべき姿がなく、威厳もなく、われわれの慕うべき美しさもない。

53:3 彼は侮られて人に捨てられ、悲しみの人で、病を知っていた。また顔をおおって忌みきらわれる者のように、彼は侮られた。われわれも彼を尊ばなかった。

53:4 まことに彼はわれわれの病を負い、われわれの悲しみをになった。しかるに、われわれは思った、彼は打たれ、神にたたかれ、苦しめられたのだと。

53:5 しかし彼はわれわれのとがのために傷つけられ、われわれの不義のために砕かれたのだ。彼はみずから懲らしめをうけて、われわれに平安を与え、その打たれた傷によって、われわれはいやされたのだ。

53:6 われわれはみな羊のように迷って、おのおの自分の道に向かって行った。主はわれわれすべての者の不義を、彼の上におかれた。

53:7 彼はしえたげられ、苦しめられたけれども、口を開かなかった。ほふり場にひかれて行く小羊のように、また毛を切る者の前に黙っている羊のように、口を開かなかった。

53:8 彼は暴虐なさばきによって取り去られた。その代の人のうち、だれが思ったであろうか、彼はわが民のとがのために打たれて、生けるものの地から断たれたのだと。

53:9 彼は暴虐を行わず、その口には偽りがなかったけれども、その墓は悪しき者と共に設

けられ、その塚は悪をなす者と共にあった。

53:10 しかも彼を砕くことは主のみ旨であり、主は彼を悩まされた。彼が自分を、とがの供え物となすとき、その子孫を見ることができ、その命をながくすることができる。かつ主のみ旨が彼の手によって栄える。

53:11 彼は自分の魂の苦しみにより光を見て満足する。義なるわがしもべはその知識によって、多くの人を義とし、また彼らの不義を負う。

53:12 それゆえ、わたしは彼に大いなる者と共に／物を分かち取らせる。彼は強い者と共に獲物を分かち取る。これは彼が死にいたるまで、自分の魂をそそぎだし、とがある者と共に数えられたからである。しかも彼は多くの人の罪を負い、とがある者のためにとりなしをした。

「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」という主の言葉が悲しみを含むものであり、イザヤ53章の、「彼にはわれわれの見るべき姿がなく、威厳もなく、われわれの慕うべき美しさもない。

53:3 彼は侮られて人に捨てられ、悲しみの人で、病を知っていた。また顔をおおって忌みきらわれる者のように、彼は侮られた。われわれも彼を尊ばなかった。

53:4 まことに彼はわれわれの病を負い、われわれの悲しみをになった。しかるに、われわれは思った、彼は打たれ、神にたたかれ、苦しめられたのだと。」との言葉も、実に不可解で悲しいものです。

そして光は力を失い、闇が世界を包みました。

この「太陽は光を失い、全地は暗くなって、三時に及んだ。」との暗いという意味には、罪とか邪悪という意味もあります。

全地が光を失って、罪が、邪悪が全地を覆って、光が及ばなくなっている。

主イエス様は「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」と叫び、また顔をおおって忌みきらわれる者のように、彼は侮られた。われわれも彼を尊ばず、彼は打たれ、神にたたかれ、苦しめられたとは、何と重く暗い言葉なのでしょうか。暗闇が光に勝ったとでもいうのでしょうか。まるで今の閉塞感溢れる世界のように、混とんが地を覆い、何が正義かもわからずに、力あるものが力無き者を蹂躪し、封殺する、そのような絶望的な状況、私たちにも突如として襲い掛かる悲惨と混とんと恐怖をも思わせる現実に対する光の、希望の、助けの無力が暗示されているようにも思えるこの暗さに、私たちは驚愕し、落胆するのです。

23:45 そして聖所の幕がまん中から裂けた。

23:46 そのとき、イエスは声高く叫んで言われた、「父よ、わたしの霊をみ手にゆだねます」。
こう言ってついに息を引きとられた。

しかしイエス様は全てを成し遂げられたのです。神殿の聖所の幕が裂ける。このことは神殿が傷つけられた恐ろしい出来事のように思われるかもしれませんが、これは覆いによる障壁が取り除かれたことを意味します。

エペソ 2:13 ところが、あなたがたは、このように以前は遠く離れていたが、今ではキリスト・イエスにあって、キリストの血によって近いものとなったのである。

2:14 キリストはわたしたちの平和であって、二つのものを一つにし、敵意という隔ての中垣を取り除き、ご自分の肉によって、

2:15 数々の規定から成っている戒めの律法を廃棄したのである。それは、彼にあって、二つのものをひとりの新しい人に造りかえて平和をきたらせ、

2:16 十字架によって、二つのものを一つのからだとして神と和解させ、敵意を十字架にかけて滅ぼしてしまったのである。

2 コリント 3:12 こうした望みをいだいているので、わたしたちは思いきって大胆に語り、

3:13 そしてモーセが、消え去っていくものの最後をイスラエルの子らに見られまいとして、顔におおいをかけたようなことはしない。

3:14 実際、彼らの思いは鈍くなっていた。今日に至るまで、彼らが古い契約を朗読する場合、その同じおおいが取り去られないままで残っている。それは、キリストにあってはじめて取り除かれるのである。

3:15 今日に至るもなお、モーセの書が朗読されるたびに、おおいが彼らの心にかかっている。

3:16 しかし主に向く時には、そのおおいを取り除かれる。

3:17 主は霊である。そして、主の霊のあるところには、自由がある。

3:18 わたしたちはみな、顔おおいなしに、主の栄光を鏡に映すように見つ、栄光から栄光へと、主と同じ姿に変えられていく。これは霊なる主の働きによるのである。

ここには勝利があります。イエス様は確かにすべてを成し遂げられ、主に霊をお委ねになりました。

エリ、エリ、レマ、サバクタニ、「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」の詩編 22 編も、このように喜びにあふれた言葉で締めくくっているではありませんか。

詩篇 22:20 わたしの魂をつるぎから、わたしのいのちを犬の力から助け出してください。

22:21 わたしをししの口から、苦しむわが魂を野牛の角から救い出してください。

22:22 わたしはあなたのみ名を兄弟たちに告げ、会衆の中であなたをほめたたえるでしょう。

22:23 主を恐れる者よ、主をほめたたえよ。ヤコブのもろもろのすえよ、主をあがめよ。イスラエルのもろもろのすえよ、主をおじおそれよ。

22:24 主が苦しむ者の苦しみをかろんじ、いとわれず、またこれにみ顔を隠すことなく、その叫ぶときに聞かれたからである。

22:25 大いなる会衆の中で、わたしのさんびはあなたから出るのです。わたしは主を恐れる者の前で、わたしの誓いを果します。

22:26 貧しい者は食べて飽くことができ、主を尋ね求める者は主をほめたたえるでしょう。どうか、あなたがたの心がとこしえに生きるように。

22:27 地のはての者はみな思い出して、主に帰り、もろもろの国のやからはみな、み前に伏し拝むでしょう。

22:28 国は主のものであって、主はもろもろの国民を統べ治められます。

22:29 地の誇り高ぶる者はみな主を拝み、ちりに下る者も、おのれを生きながらえさせない者も、みなそのみ前にひざまずくでしょう。

22:30 子々孫々、主に仕え、人々は主のことをきたるべき代まで語り伝え、

22:31 主がなされたその救を／後に生れる民にのべ伝えるでしょう。

また、あの苦難のしもべのイザヤ53章も、このように締めくくられているではありませんか。

53:10 しかも彼を砕くことは主のみ旨であり、主は彼を悩まされた。彼が自分を、とがの供え物となすとき、その子孫を見ることができ、その命をながくすることができる。かつ主のみ旨が彼の手によって栄える。

53:11 彼は自分の魂の苦しみにより光を見て満足する。義なるわがしもべはその知識によって、多くの人を義とし、また彼らの不義を負う。

53:12 それゆえ、わたしは彼に大いなる者と共に／物を分かち取らせる。彼は強い者と共に獲物を分かち取る。これは彼が死にいたるまで、自分の魂をそそぎだし、とがある者と共に数えられたからである。しかも彼は多くの人の罪を負い、とがある者のためにとりなしをした。

ヨハネ福音書のこの御言葉は真実です。

1:1 初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。

1:2 この言は初めに神と共にあった。

1:3 すべてのものは、これによってできた。できたもののうち、一つとしてこれによらないものはなかった。

1:4 この言に命があった。そしてこの命は人の光であった。

1:5 光はやみの中に輝いている。そして、やみはこれに勝たなかった。

11:25 イエスは彼女に言われた、「わたしはよみがえりであり、命である。わたしを信じる者は、たとえ死んでも生きる。

11:26 また、生きていて、わたしを信じる者は、いつまでも死なない。あなたはこれを信じるか」。

ルカ 23:47 百卒長はこの有様を見て、神をあがめ、「ほんとうに、この人は正しい人であった」と言った。

23:48 この光景を見に集まってきた群衆も、これらの出来事を見て、みな胸を打ちながら帰って行った。

23:49 すべてイエスを知っていた者や、ガリラヤから従ってきた女たちも、遠い所に立って、これらのことを見ていた。

23:50 ここに、ヨセフという議員がいたが、善良で正しい人であった。

23:51 この人はユダヤの町アリマタヤの出身で、神の国を待ち望んでいた。彼は議会の議決や行動には賛成していなかった。

23:52 この人がピラトのところへ行って、イエスのからだの引取り方を願い出て、

23:53 それを取りおろして亜麻布に包み、まだだれも葬ったことのない、岩を掘って造った墓に納めた。

23:54 この日は準備の日であって、安息日が始まりかけていた。

23:55 イエスと一緒にガリラヤからきた女たちは、あとについてきて、その墓を見、またイエスのからだを納められる様子を見とどけた。

23:56 そして帰って、香料と香油とを用意した。それからおきてに従って安息日を休んだ。

闇は光に打ち勝つことはありません。光がこの世界を覆っています。そして主を信じ、恐れかしこむ、神の国を待つ望む人たちによって、御国は前進していきます。

私たちの人生に暗闇が覆い尽くそうとも、私たちは主によって見捨てられることはありません。私たちの苦しみからあふれ流れる忍耐と信仰とによって、捧げる祈りによって、生ける主は私たちに応えて臨んでくださり、私たちの信仰は増し加えられるのです。御国を待ち望む者たちの働きによって教会が形成され、主イエス様と神様の御名があがめられるのです。

詩篇 23

ダビデの歌

23:1 主はわたしの牧者であって、わたしには乏しいことがない。

23:2 主はわたしを緑の牧場に伏させ、いこいのみぎわに伴われる。

23:3 主はわたしの魂をいきかえらせ、み名のためにわたしを正しい道に導かれる。

23:4 たといわたしは死の陰の谷を歩むとも、わざわいを恐れませんが、あなたがわたしと共におられるからです。あなたのむちと、あなたのつえはわたしを慰めます。

23:5 あなたはわたしの敵の前で、わたしの前に宴を設け、わたしのこうべに油をそそがれる。わたしの杯はあふれます。

23:6 わたしの生きているかぎり／必ず恵みといつくしみとが伴うでしょう。わたしはとこしえに主の宮に住むでしょう。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。暗闇が光を席卷して全地が暗くなろうとも、私たちは災いを恐れませんが、主が羊飼い、私たちは何も欠けるところがありません。どうぞ私たちを今週も光のうちに導きください。どうぞあらゆる苦しめる方々を神様の救いと平安の中にお導き下さい。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン